

神戸市立甲緑小学校 学校評価報告書

校園長名 崎川 孝一

記入者名 齋藤 元和

り学 の校 目づ 標く	「教育活動の推進」 ・主体的・対話的に基づく授業改善 ・環境整備 ・ICT機器・端末の効果的な活用 ・じぶん学習の推進 ・学力調査の分析 「チーム甲緑」としての組織力強化」 ・教職員による協働体制と人材育成 ・インクルーシブ教育と支援体制 ・関係機関との連携 ・学校評価 「保護者や地域との連携」 ・情報発信 ・保護者との信頼関係構築 ・保護者アンケート ・学校運営協議会					
内容		重点的な取組み	評点 (４段階)	特記事項 (学校自己評価)	関係者評価 (学校自己評価に対する学校運営協議会の意見等)	学校自己評価、関係者評価を踏まえた 次年度の重点的な取組みの案
育 て た い 子 供 の 姿	元氣いっぱい やる気いっぱい 思いやりいっぱい ～互いの考えを深め合える集団作り～					
	明るくあいさつ元気な子	あいさつ運動 健康的な体づくり	3	毎朝、門に職員が立ち、自分からあいさつをする児童に声をかけた。学校保健委員会で姿勢についてストレッチ運動を行った。	子供たちは、比較的あいさつをしているが、あいさつを返してくれない子供も見かける。家庭のしつけもあるが、しっかり身につけさせたい。	教職員がすすんであいさつをすること、委員会活動や6年生を中心とした自主的な活動で、あいさつ運動を進めていきたい。
	自分で考え 最後までがんばる子	複数指導の充実 主体的・対話的な授業	3	学習指導員との複数指導や放課後学習の準備など、1年間を通して継続した支援ができた。端末を取り入れた授業づくりを行っている。	復習する時間の確保やできていない子供へのフォローをしてほしい。複数指導で個に応じた指導をしていることは理解できた。	各担任が休み時間等を活用して、フォローをすることを継続する。複数指導体制についても、次年度も継続していく。
	命を大切にし、 思いやりをもって行動できる子	異学年交流の推進	3	上級生が下級生を助ける場面は多く見かける。特に、1・6年の交流は積極的に行われている。帰りの会で、友達の良さを認める場面は多い。	学校だよりや学校運営協議会で紹介されたように、今年度、昨年度より異学年交流の時間が増えているのは分かった。	次年度も計画的に異学年交流を進めていく。1・6年の交流が良く進んでいるので、他学年にも学習の発表を伝え合ったり、デジタル機器を活用して発信したりする活動も推進していく。
全 市 的 に 推 進 す べ き こ と	①いじめ防止対策に関する取組み	いじめ問題対策委員会の開催	4	毎週水曜日に児童の様子を職員で情報共有し、その対応等について協議した。学期に1回、いじめアンケートを実施。実施後の聞き取りで未然防止に努めている。	大きないじめは今年度、起きていないと聞いて安心している。学校が丁寧に対応していることがわかった。	次年度も、児童の様子を教職員全体で多面的に見て、気付いたこと等を情報共有していく。いじめアンケートについても、活用することで未然防止に努める。
	②不登校支援の取組み	個別支援の充実	3	登校渋りの子に対して、登校してきたら別室で対応するようにしている。家庭と学校が連携して、情報共有するよう動いている。	サポートルームの早期設置と人員の確保が必要である。学校に来にくい子供のために、地域の受け皿が必要であると強く感じた。	サポートルームの設置と人員を確保を行い、子供の安心・安全な居場所作りを推進していく。
	③教職員の業務改善	超過勤務時間の削減	4	火曜日にはエコデーとして18時30分、月曜日は19時、水～金曜日は19時30分に設定している。昨年よりも30分以上早い退勤ができています。	昨年度より早く教職員が帰っていることがわかった。地域でサポートできることはしていきたい。	施錠を輪番制にして、施錠業務を教職員全員で取り組んでいく。
	④「すぐる」の活用、ホームページにおける情報発信	日々の活動紹介	4	ホームページでは、学校での児童の様子を、毎日、発信した。すぐるでは、お手紙など、学校からのお知らせを随時配信した。	ホームページは毎日更新されていて、学校生活のことがよくわかった。すぐるの配信は便利ではあるが、配信数が多いと既読スルーをすることもある。	ホームページのアピールを学校だより等で行っていく。すぐるの題名で、ある程度の日程、内容がわかるよう、配信時に工夫をしていく。
	⑤学校生活のルールや決まり (校則など)について	学校をよりよくしようプロジェクト	4	6年生が中心になって、学校のルールの見直し、改善に向けたアピールを朝会などで行った。上級生の発信に、下級生も応える動きが見られた。	子供達が学校生活を見直し、6年生が中心となって呼びかけていることが良いと感じた。次年度以降も取り組んでほしい。	学校のきまりもたくさんあるので、項目ごとに分けて、子供たちも定期的にふりかえりを行っていく。

【評点】 4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：どちらかと言えば課題がある 1：課題がある